

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成29年3月22日

施設名	牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 環境共生課
-----	-------	------	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	(公財)高知県牧野記念財団	指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200番地6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p><植物園面積> 約18.2ha(うち6haを利用)、駐車場(普通車など195台、バスなど8台) <主要施設> 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど <開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 入園料／一般720円(高校生以下無料)、団体620円(20名以上)、年間入園券2,880円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)／映像ホール1,440～1,850円、アトリエ実習室510～620円など 撮影料／業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,840円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,700円</p>		
職員体制	常勤職員: 18人 契約職員: 28人 合計: 46人		

「職員数は、平成28年4月1日現在(常勤役員2名を常勤職員に含む)」

2 収支の状況

単位:千円

		26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(予算)
収入	県支出金	350,873	351,106	370,674
	使用料・手数料	52,025	56,458	54,136
	その他	6,372	11,544	11,398
	収入計 (a)	409,270	419,108	436,208
支出	事業費	70,672	70,570	48,846
	管理運営費	165,500	170,078	200,303
	人件費	172,779	178,391	187,059
	その他	319	69	0
	支出計 (b)	409,270	419,108	436,208

3 利用状況

	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	137,111	143,860	140,000
②利用者意見等の反映	○利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) ・イベント時や教室開催時にはアンケートを実施し、要望を把握している。アンケート結果は、適宜職員に周知し、次回の対応(HP、リーフレット、イベント案内、園内の表示・案内板等)に反映している。		
③その他特記事項	・子どもたちの関心が高い恐竜をテーマとした、植物の進化を考える企画展「恐竜時代の植物たち」や、春に開催していた「五台山花絵巻」に代わる、春のキャンペーン企画「ドラマティック・マキノ植物園に行こう!」を開催するなど、入園者の増につなげた。 ・全体の入園者数は143,860人であり、目標の18万人には届かなかったものの、前年度に比べて6,749人、約5%の増加となった。		

4 平成27年度業務評価

項 目	状 況 説 明
①適正な管理運営の確保	・法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。
②利用者サービスの維持向上	・ベビーカー、車イスに加えてシルバーカーの貸出等、来園者にとって利用しやすい管理運営に努めている。 ・外部で行われる接遇セミナー等に参加するほか、財団内部でも情報共有や勉強会を実施している。 ・インバウンド対策やプロモーション強化に取り組んでおり、さらなるサービス向上に期待する。
③事業実績	・園地管理では、外部団体の協力を得るなど、展示の充実につなげた。 ・植物管理においては、ノジギクやトサムラサキなど牧野博士ゆかりの植物を新たに導入。また、南園全体の花園化を目指し、南園谷地のツツジ類において大規模剪定を実施した。 ・基礎研究分野では、研究活動の成果を7つの原著論文として公表するとともに、学会やシンポジウムにおいても発表するように努めた。標本数は1年間で10,014点増加し、総数272,150点と充実を図った。 ・薬用植物研究では、昨年に引き続きホソバオケラ、シャクヤクの栽培試験を行うなど、中山間地域における産業振興に向けた研究調査を実施している。
④収支の状況	・企画展「恐竜時代の植物たち」の開催をはじめとする子どもを中心とした来園者層の拡大を図ることにより、利用料金収入は56,458千円と前年度に比べて4,433千円、約9%の増加となった。
総合評価	A
	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな企画や取組みが実施されており、研究や見せ方の工夫において改善がみられた。 ・入園者数の増加は評価できる。 ・誘客につなげるために、来園者の県内外別等の属性調査を実施しているが、それらの分析に基づく戦略的なプロモーションが十分にはできていない。 ・ボランティアのさらなる活動の幅を広げるために、新規開拓及び養成講座等の活動支援策が充実されることを期待する。 ・研究については、1、2年前から進歩がみられる。引き続き今期(平成28～32年度)において、地域貢献に向けた新たな展開を期待する。 ・さらなる利用促進と普及教育活動の改善からリピーターの増加や植物及び環境への興味を引き出す努力を続けてほしい。 ・伝統園芸に取り組む人の高齢化が課題となっており、これまで継承されてきた展示方法、鉢等の器、栽培等の記録や技術を後世に残す役割を担ってほしい。 ・南海トラフ地震を想定した災害対応訓練については、避難場所としての対応も含めて、毎年、想定事項を変えて地元住民、警察、消防と徐々に連携を広げながら、取り組んでほしい。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの